

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語・算数・理科ともに、全国を下回る正答率となっています。しかし3教科とも無解答率は全国に比べ低く、問題に粘り強く向かう姿勢が見られます。
- ・国語では「読むこと」の正答率が全国平均を上回っています。特に、「人物像や物語の全体像を具体的に想像すること」に優れていることが分かります。一方、「知識・技能」の「漢字を文中で正しく使う」ことに課題がみられます。
- ・算数では、図形領域におけるコンピュータを用いて作図する際のプログラムについての正答率が全国を大きく上回り、本校が継続して行っているプログラミング教育の成果が表れています。一方、「変化と割合」の割合の求め方については課題がみられます。
- ・理科では、「生命」の昆虫の体のつくり、「エネルギー」や「地球」の光の性質に関する内容の正答率は高く、中学年の学習内容と関連付けながら問題解決できていることが分かります。しかし、今までの学習を生かし発想した実験方法を、検討、改善し、自分の考えをもつことに課題がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
達成感、規範意識、自己有用感、地域社会に関わる活動、ICTを活用した学習状況など、多くの項目においてよい傾向がみられます。特に学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つか問う項目については、100%の児童が役に立つと回答しています。
- ・課題となる項目
基本的な生活習慣、スマホ・ゲーム等の利用時間、学習習慣や学習環境について課題がみられます。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・日常的に主体的・対話的で深い学びを目指した授業を行います。また自分の考えと友だちの考えを比較しながら考えを深められるよう、対話を大切に授業に作りこみます。
- ・国語の学習では、モジュールの時間を中心に漢字学習などを行い基礎基本の定着を図り、そのうえで文章作りにおいて学習した漢字を積極的に使うことができるように指導していきます。
- ・算数については、計算の結果だけでなく、何を求めているのか、式にはどんな意味があるのかなどについて理解しながら学習を進められるような授業を行います。
- ・理科の学習においては、抽象化された学習内容をいかにして身近なものに感じられるか、生活とつなげて理解できるかを意識した授業作りを進めていきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・家庭学習の習慣化に向け、ご家庭で話し合い学習計画を立てたり、学習に向かいやすい環境を整えたりするなどご指導をお願いします。
- ・ICTを上手に活用すると同時に、動画視聴やゲーム等を行う時間が多くないか、家庭でルールの再確認をお願いします。